10月が始まって あっという間に2週間が過ぎました。今年も あと78日です。

1日1日、瞬間 瞬間が 過去に変わっていく…決して元に戻ることはない時の中でひと時ひと時の貴さに気づかされ、生かされている私達であることを想わされます。コロナに翻弄された日々、戸惑いや不安に満ちた不自由な生活が こんなにも長い間続く事態を当初は考えてもみませんでした。でも ここへ来て対応が急変しています。それもまた 逆に心配になってしまい 行政へ問い合わせることが度々あるのですが、状況が和らいでいるのだろうと信じ、目の前の愛する幼子達の かけがえのない命と大切な未来を守り抜くため、私達大人が知恵を絞り 今出来る限りを 尽くすことに変わりはないのだと思っています。人知では計り知れない 神様の御心に想いを委ね 深まりゆく秋の恵みの中、すべての存在の創造主へ 静かに祈りを馳せるこの頃です。

さて 先週の土曜日(10/8)には 今年度初の保育行事「プレイデイ・1回目」を無事 行うことが出来ました。皆様の温かなご理解とご協力に深く感謝申し上げます。先月の保護者会で話しておりましたように 今回は 年長組と年中組のみの参加とし、当日以上に、そこに至るまでの毎日の様々な体験や共感したことを活かす ねらいで子ども達が 自分達で発見すること、互いに考え合いどんなことでも言い合えること、それらの仲間との共有体験を通してそれぞれが楽しい!面白い!と感じ合うことで、年少組と乳児クラスの 小さな仲間達の「プレイデイ・2回目」へ繋げていけるよう 想いの分かち合いを中心に 主体的 且つ 自発的な取り組みを大切にしてきました。特に 年長組の子ども達は 昨年の 憧れの先輩達の“勇姿”を思い出す子どももいて「ついに自分達の番が来た!」とばかりに 張り切っている姿が微笑ましかったです。当日も7人の気持ちをひとつにして、担任の小藺江先生と共に 年長組として精一杯頑張っていた様子を見ながら それぞれの心の成長が感じられ、まさに感無量でした。

つのぶえ保育園の行事はすべて日々の保育活動の中の1日…言わば“通過点”です。ですから、その行事当日だけが“本番”という意識はなく、当日に照準を合わせてその日のために、その日の成功(!?)を目指して“練習する”ことも一切しません。誰の人生にも練習が無いように、子ども達が懸命に生きている日々の園生活の上に“本番”や“本番のためのリハーサル”という捉え方での保育時間は 存在しません。子どもにとっては1日1日こそが“常に本番”であり その一瞬一瞬が真剣なのです。大切なのは、日々の出来事や 様々な活動を通して、子ども達ひとりひとりが重ねるひとつひとつの経験です。その時に 何を感じたか 何を考えたか 何に気づいたのか そして どうしたのか… そのプロセスにこそ 大きな意味や 大きな価値があります。私達は どんな時も常に、そこ(子ども達ひとりひとりの心)に寄り添いたいと願い 日々の保育に尽力しています。そして 結果はすべてではなく、結果が出たその後に 振り返ることの重要性を、様々な体験を通して共に気づき合えるようにしています。来月5日の「プレイデイ・2回目」も 普段の園生活の姿がそのままの、笑顔溢れる温かな1日を過ごそうと 年長・年中組の子ども達と祈りつつ 準備を始めています。美しく整った入場行進も 鼓笛隊も お遊戯も無く、見栄えは 綺麗ではありませんが「見せる」プログラムより、子ども達にとって何より嬉しいのは 皆と遊ぶことです。すべての子ども達、そして参加される皆様ひとりひとりが プレイデイの主役です。私達保育者も仲間の1人として いつものように それぞれ互いの想いを分かち合い 尊重し合って楽しみたいと思っていますので、8日までの子どもの姿、8日からのプロセスも併せてその成長の様子をどうぞ見守って頂ければとても嬉しく感謝です。

『人は うわべを見るが、主は 心を見る。(旧約 Iサムエル 16:7)』 (石田 記)